



だ い ひ ょ う り ゅ う シャクルトンの大漂流

グリル作 ちばしげき 千葉茂樹訳 いわなみしよてん 岩波書店

20世紀はじめ、シャクルトンと隊員たちは、南極大陸横断の探検へと乗りだした。しかし、船は分厚い氷にはばまれ、動けなくなってしまう。氷上で孤立無援になつた彼らを、ブリザードと氷の圧力がおそつ。とうとう船は破壊され、沈没してしまった。探検を中止し、生きて帰ろうとする彼らに、さらなる困難が待ちうける。

過酷な状況にあつても、どうして彼らは希望をうしななかつたのか。勇敢な心と不屈の精神に満ちた、本当にあつた冒険物語。

